

はじめまして



呼吸器科 おきたりき 沖田理貴先生

平成24年4月より、毎週水曜日に呼吸器科外来を担当しております、沖田理貴と申します。山口県出身で、平成10年に大学卒業後、広島大学腫瘍外科に入局し、その後、広島市立安佐市民病院、四国がんセンター(松山市)、広島大学病院、等で消化器、呼吸器、乳腺の外科に従事し、大学院では腫瘍免疫学の研究を行いました。以後は主として呼吸器、乳腺外科医として診療に従事し、呼吸器外科専門医、乳腺専門医、がん薬物療法専門医を取得、しかし腫瘍免疫研究への興味が尽きず、平成21年5月よりスウェーデンのカロ

リンスカ研究所に移り、純粋な研究者として3年間を過ごしました。

いまや私の第2の母国！？スウェーデンといえば、充実した社会保障や日本人受けするシンプルな北欧デザインの印象が強いかと思います。そのとおりなのですが、一方で高福祉に対しては高負担(消費税は食料品15%、その他25%。所得税もすごい…)、シンプルデザイン=機能もシンプル？なのか上司の車、私の憧れの車VOLVOでしたがなんとオーディオはラジオだけ…。生活することで、その裏にある現実を知るものですね。ただ、それもまたよし。言葉(スウェーデン語、英語)を筆頭に苦労は絶えませんでした。美しいけど儂く終わる夏、現地人ではうつ頻発も厳寒が珍しい日本人はややtensionがある(私だけ?)冬。異国の自然と文化を家族と共に経験できたこと、そして何より、スウェーデン人、祖先はかの有名なバイキングなわけですが、現代スウェーデン人は、研究室のボスから売店のおばちゃん、食堂のお兄ちゃんまで大変親切で、スウ

エーデン語を話せない私のような極東からのプチ移民にもとても親切にしてくださり、今では日本と並んで大好きな国となりました。

さて、研究も一区切りつき、本年4月より、臨床と研究が両立できる場を求め、昔の上司を頼って川崎医科大学呼吸器外科学に辿り着きました。こちらでは休日に奈義町に化石掘り、笠岡に生きた化石(ご存知カプトガニ)観賞等々、化石好きな私にはど真ん中ストライク。楽しく過ごしております。

肝心の仕事については、ここ倉敷平成病院呼吸器科で求められる“呼吸器内科医”としての仕事は、普段従事している“呼吸器外科医”の仕事と180度異なり、かなり不安でしたが、皆さまの温かいサポートもありなんとか今日まで過ごせております。

こちらでは触れ合いを大事にしながら地域医療に貢献したいと思っております。ご指導のほど宜しくお願い申し上げます。

Doctor's Eyes